

3回目は、医療法人社団 爽秋会 岡部医院 院長 佐藤隆裕先生と東北大学大学院医学系研究科保健学専攻公衆衛生看護学分野 助教 田口敦子先生よりご講演いただきました。先生方には、参加者の要望として「具体的な事例を通して地域連携を学びたい」という声が多く聞かれたことをお伝えし、講演では具体例を多く交えてお話いただきました。

はじめに佐藤先生からは『在宅がん緩和ケアにおける多職種連携の実例』について、「がんの終末期の特徴と緩和ケアの定義」や「なぜ多職種連携が必要か?全人的苦痛(Total Pain)という捉え方」についてお話しいただき、最後はいくつかの在宅での事例を通して多職種連携の必要性をお伝えいただきました。

続けて、田口先生からは『多職種連携のポイン



トと地域包括ケアシステムの構築を目指して』を演題に「地域包括ケアとは?」、「連携のポイントとは?」を踏まえ、「地域包括ケアの構築に向けてそれぞれができること」について登米市や宗像市の取り組みを実例にお話しいただきました。

参加者からは「事例がより勉強になった」や「自分から少しずつ連携のつながりを作りたい」という感想をいただくことができました。

全3回のコースに出席した参加者の感想より

「さまざまな面からがん患者や地域との関わり方を学ぶことができた」、「仕事をしていて不安な部分もあり、大変参考になった」などの感想のほか、「講演会方式だけでなく、多職種が顔を合わせて話し合うグループワークを希望したい」という要望を数多くいただきました。今後もいただいたご意見やご要望を参考にして、支援者に役立つ研修会を企画・開催していきたいと思っております。